

## ご来園の皆様の感染症予防のために



京都府立植物園は、5月18日(月曜)より開園しています。

しかしながら、未だ予断を許さない現状もあり、ご来園の皆様に対して感染予防の要請と園内の規制対策を行っていますので、ご理解ご協力いただき「憩いの場」としてご利用ください。

また、各種ガイド案内・講演会・講習会等の植物園主催行事は当面中止させていただきます。

### 【ご来園前のお願い】

- ◆ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆2週間以内に感染が拡大している国への訪問歴がある方はご入園をお断りします。

### 【ご入園時のお願い】

- ◆入園門では、サーモグラフィー等にて体温確認させていただきます。
- ◆発熱、咳、咽頭痛などの症状がある方はご入園をお断りします。
- ◆マスクの着用や咳エチケットをお願いします。

### 【ご入園後のお願い】

- ◆人との距離を確保しましょう。
- ◆手洗い・手指の消毒を行いましょ。
- ◆こまめな水分補給や、人との距離を十分取った上で適宜マスクを外すなど休憩をとり熱中症の予防を心がけましょ。
- ◆人の密集が想定される次のエリア等を一部封鎖しています。
  - ・未来くん広場(遊具、きのこ文庫)
  - ・観覧温室内の昼夜逆転室
- ◆人が密集するエリアのテーブル・イスを撤去しています。

### 「植物園オンライン・ミニミニミニガイド」

「土曜ミニミニガイド」のオンライン短縮版です。



技術課職員が植物解説!



### 「おうちでお花見」

「週刊オススメ植物情報」の代替版です。



### スマホdeガイド



QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察!

### ※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!  
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。  
※温室観覧料は別途必要となります。

### 植物園HP!



今週の「探して！」  
2020. 6. 12  
5号

⑫ サイコトリア ペピギアナ

アカネ科。中南米原産。開花期に唇のような形をした苞(ほう)が赤く色づき、花粉を運ぶハチドリなどを引きつける。開花すると口紅を塗った唇が小さな花をくわえているように見え、その姿が別名「ホット・リップス(熱い唇)」のゆえん。

⑪ タイサンボク

モクレン科。北米原産。アメリカを代表する花木の一つで、米国では50種類以上の園芸品種が作出されている。甘く強い芳香があり、香り成分から香水も作られる。雄しべ雌しべが太く集まっていることが特徴で進化初期の形質を示す。

⑩ パナナ

バショウ科。マレー半島原産。葉が40枚前後出た後、赤紫色の花房が形成される。花房は垂れ下がり、最初の10段程度は子房が発達する雌花群で、その後も開花は続くが、中性花または雄性花で子房は発達せず、実らない。

⑨ ハナショウブ

アヤメ科。日本や朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部に分布。江戸時代に東北地方に自生している野生種の変異株をもとに選抜・改良がなされた。「江戸系」「肥後系」「伊勢系」など、育成地ごとに草姿・花型に特徴がある。

① ボダイジュ

アオイ科。中国原産。漢字では菩提樹と書く。5~6月に小さな花が咲き、10月頃には結実する。直径8ミリほどの球形の実が苞と呼ばれるへら状の羽根にぶら下がるように付く。樹上から落ちると、プロペラのように回りながら風に乗る。

② タチアオイ

アオイ科。日本には薬用として中国から渡来。名前は茎がまっすぐに立ち上がって伸びていくことに由来。花は梅雨入り頃の下から咲き始めて順々に咲き上がり、梅雨明け頃に咲き終わることから「ツアアオイ」の別名でも呼ばれる。

③ ハマナス

バラ科。東アジアの温帯、亜寒帯に分布。和名の由来は、実の形をナシになぞらえた「ハマナシ」が東北弁でなまったとする説や、ナスに似ているとして付けられたとする説など、諸説ある。皇后雅子さまの「お印」としても知られている。

④ ガウラ

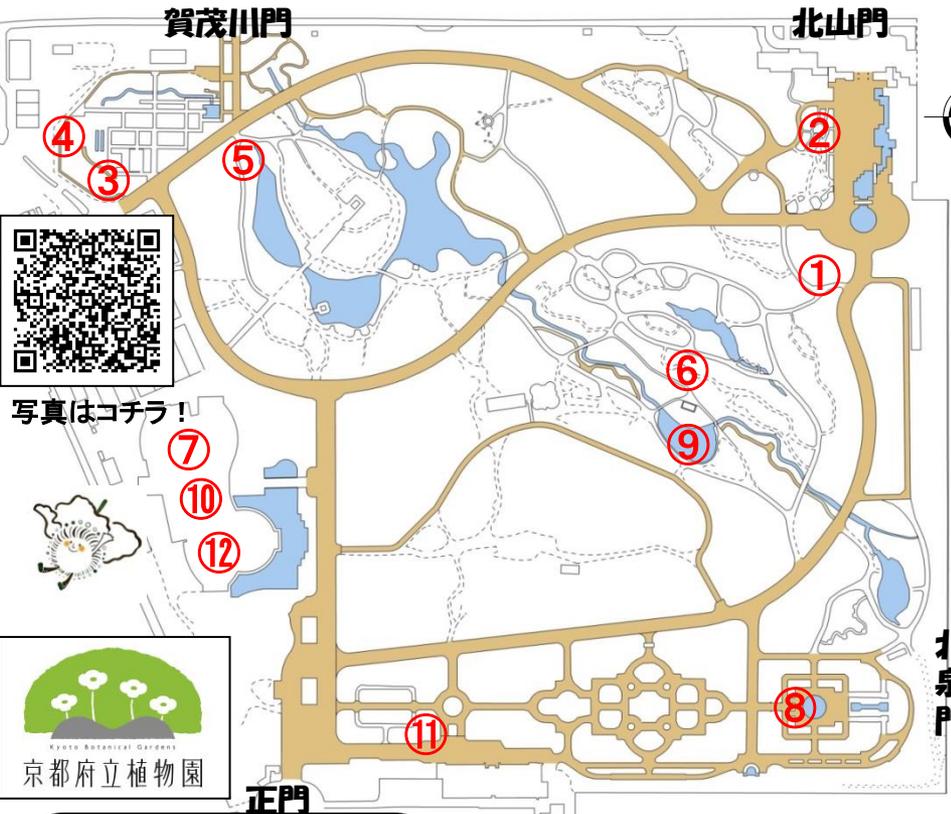
アカバナ科。北アメリカ原産。和名は淡桃色の花から山桃草(ヤマモモソウ)。花の形や色に由来し、白蝶草(ハクチョウソウ)との別名もある。ガウラはギリシア語の「堂々たる」、「華麗な」を意味するgaurosに由来し、美しい花にちなむ。

⑤ バイカモ

キンポウゲ科。直径1.5cmほどのウメに似た花を咲かせ水中に生えることから「梅花藻」と名が付いた。北海道から本州にかけて分布。南限である近畿地方では、現在、滋賀県と兵庫県で自生が確認されているが、京都府では既に絶滅。

⑥ ハナイカダ

ハナイカダ科。日本各地と中国に分布。雌雄異株(雌雄の株が異なる)。葉の上に花が咲き、果実が実ることが特徴。葉の上に乗っている花や果実の姿を筏(いかだ)乗りに見立ててその名が付いた。果実は黒く熟す。



写真はコチラ!



⑧ カンナ

カンナ科。熱帯アメリカ原産。観賞用のものはハナカンナと呼ばれ、トロピカルな雰囲気の花を夏から秋遅くまで観賞することができる。熱帯が原産のため、冬には地上部は枯れてしまうが、地中にショウガに似た根茎を残す。

⑦ インドボダイジュ

クワ科。インドから東南アジアにかけて分布。釈迦がこの木の下で悟りを開いたと伝わったことから、仏教三聖木の一つとなった。熱帯性で冬の寒さに弱いため、日本の寺院では葉の形が似ているアオイ科のボダイジュが代わりとされた。